

社会科編

公民的分野『(3)現代の民主政治とこれからの社会、世界平和と人類の福祉の増大』の「資源・エネルギー」の学習指導案として、3時間扱いで作成した。

▶ 指導計画

- 第1時 資源・エネルギーを身近に感じよう。
 第2時 資源・エネルギーの現状を知ろう。
 第3時 資源・エネルギーを有効に利用しよう。

▶ 第1時「資源・エネルギーを身近に感じよう」の授業展開例

学習目標と内容	学習活動(学習形態)と評価(*)	指導上の留意点【生徒用冊子の章】
◎人類の歴史とエネルギーの関係を考えよう ・火、道具や家畜の利用 ・まき・炭・水・風の利用 ・石炭・石油の利用	○歴史的分野の学習を思い出し、各時代の人々の生活を支えたエネルギーを考え、発表する。ワークシートに記入する。(一人ひとりが予想をワークシートに記入し、グループで討論して、代表者が発表する。その後、資料で確かめる。) *歴史的事実に基づいて考察している(思考・判断)。	・ワークシートの記入をもとに、発言によって展開する。 ・【1 人類とエネルギーの歴史】を開き、記入・発言を確かめさせる。
◎私たちの生活を支えるエネルギー「電気」に気づこう ・生活や産業を支える電気 ・電力使用量が多い機器・時間(季節) ・大停電(長時間、広範囲)による社会的影響	○現代の生活を支えるエネルギー「電気」に気づき、最も電力を使用している機器や時間を予想し、資料から確かめる。また、大停電が暮らしや社会に及ぼすさまざまな影響を考えさせる。(グループで討論して、予想をワークシートに記入する。その後、資料で確かめる。) *資料を適切に読み取ることができる(資料活用能力)。	・生活のなかから考えさせる。 ・【2 私たちの暮らしと電気】を開き、予想を確かめさせる。 ・1日中停電すると、照明、エアコン、冷蔵庫、エレベーター、電車、信号機、コンピュータなどさまざまな電気機器が使えなくなり、社会生活に重大な影響を及ぼすことを身近な問題として考えさせる。
◎送電・発電の仕組み、人々の工夫・努力を理解しよう ・送電の仕組み ・発電の仕組み ・人々の工夫・努力	○送電の仕組みや発電の仕組みを資料から考え、理解する。ワークシートに記入する。(一人ひとりが資料から読み取り、整理しながらワークシートに記入する。) ○電気を届けるために働く人々の工夫・努力を資料から考えさせる。 *送電・発電の仕組みや人々の工夫・努力が理解できる(知識・理解)。	・【3 発電所から家庭まで】【4 発電所の種類としくみ】を開き、ワークシートにまとめさせながら理解させる。(技術・家庭科)周波数が違うと、モーターの回転数が変わることを知らせる。
◎発電の原料(資源)の輸入先に気づき、日本の海外依存率について考えよう ・原料(資源)の輸入先 ・資源の輸入割合 ・偏在する輸入先とエネルギー確保の課題	○地理的分野の学習を思い出し、原料(資源)の輸入先を予想し、ワークシートに記入する。資料から確かめる。(一人ひとりが予想をワークシートに記入する。その後、資料から確かめる。) ○資源輸入の割合を読み取り、他の国々と比較するとともに、偏在する輸入先と併せ、気づいたこと、感じたことを発表する。(一人ひとりが資料から読み取り、ワークシートに記入し発表する。全体で討議する。) *資料を適切に読み取ることができる(資料活用能力)。 *日本の輸入依存度の高さを理解できる(知識・理解)。 *資料から気づいたことを自分の言葉で発表できる。友人の意見に賛意を示すことや、質問することができる(思考・判断)。	・既習内容から考えさせる。 ・【6 主なエネルギー資源の輸入先】を開き、予想を確かめさせる。ワークシートにまとめながら理解を深める。 ・様々な資源がエネルギーとなって、生活を支えているということと、資源輸入先が偏在している実態から、気づいたこと、感じたことを自分の言葉でまとめさせる。 ・発表、討論を通して、一人ひとりが自分の意見を組み立てられるようにする。(教師が提示しない)

▶ 展開にあたって

既習内容を踏まえ、ワークシートを活用し、学習形態を個人、グループ、全体と変えながら展開していく。資源・エネルギーに対する生徒一人ひとりの意見を発表させ、次時への橋渡しとする。